

生誕150年記念

板谷波山の陶芸

2022年 6月25日(土)
— 7月24日(日)

〈会期中無休〉

開館時間／9時30分～18時(入場は17時30分まで)

観覧料／一般 1,000円(800円) 大学生 800円(600円)

*高校生以下無料 *2階コレクション展観覧料を含む *()内は65歳以上の方および20名以上の団体料金
*身体障がい者・精神障がい者・保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはマイクロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

主催／石川県立美術館 特別協力／北國新聞社

後援／NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

協力／筑西市、公益財團法人波山先生記念会、廣澤美術館

企画協力／株式会社キュレイターズ



石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



板谷波山の陶芸

ITAYA Hazan :
The 150th Anniversary of his Birth



6



8

内側から光り輝くような、柔らかい色調による異国風の意匠。一分の隙もない整った姿。陶芸家・板谷波山が生み出した「葆光彩磁」の作品群は、今もなお私たちを魅了します。理想の作品づくりのためには一切の妥協を許さないという強い信念により、端正で格調高い作品を数多く手がけた波山は、近代日本陶芸の発展に大きく寄与し、昭和28年(1953)には、工芸家として初の文化勲章を受章しています。

明治5年(1872)茨城県下館(現・筑西市)に生まれ育った板谷波山(本名:嘉七)は、東京美術学校(現・東京藝術大学)で彫刻を学びました。石川県工業学校(現・石川県立工業高等学校)に彫刻科の教員として赴任した後、窯業科創設に際し同科で教鞭をとり、本格的に陶芸を始めています。また波山芸術の礎である、器の成型を担当した現田市松は、石川県小松市の出身であることから、石川県は波山と縁の深い土地と言えるでしょう。生誕150年を迎える節目の年に開催される本展は、より多くの人々に、波山の類まれなる芸術世界を紹介するものです。

- 1 | 《彩磁瑞花祥鳳文花瓶》1916年 MOA美術館蔵
 2 | 《天目茶碗》1942年頃 筑西市(神林コレクション)蔵
 3 | 《青磁蓮華文水差》大正前期 板谷波山記念館蔵
 4 | 《彩磁落葉文大花瓶》1911年頃 廣澤美術館蔵
 5 | 《葆光彩磁牡丹文様花瓶》1922年 東京国立近代美術館蔵
 6 | 《彩磁沢瀉花瓶》1901年頃 東京藝術大学蔵
 7 | 《葆光彩磁草花文花瓶》1917年頃 石川県立美術館蔵
 8 | 《少年・少女像》1898-1903年頃 石川県立工業高等学校蔵

関連行事

■講演会 「板谷波山～近代陶芸界における役割とその成果」

日時:6月25日(土) 13時30分～15時

会場:石川県立美術館 ホール

講師:荒川 正明氏(学習院大学教授 展覧会監修) *聴講無料、申込不要

■土曜講座 「波山と石川」

日時:7月9日(土) 13時30分～15時

会場:石川県立美術館 講義室

講師:奈良 竜一(学芸主任) *聴講無料、申込不要

■映画上映会 「HAZAN」(108分)

日時:7月10日(日) 13時30分～15時20分

定員:100名(予定)

会場:石川県立美術館 ホール *参加無料、要申込

詳しくは当館公式ウェブサイトをご覧ください。

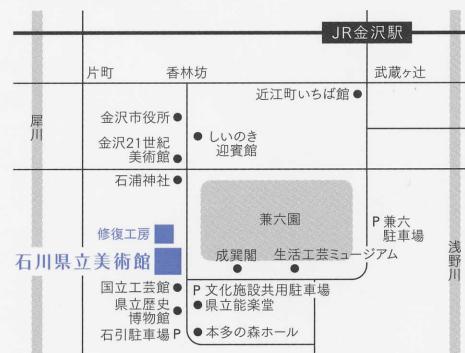
※ 感染症の状況により内容を変更する場合がございます。

最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

[同時開催] 2階コレクション展

●歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鎧II ●古九谷と再興九谷I

●波山と石川 ●時の表現 ●優品選



交通のご案内

[バス]

JR金沢駅バスターミナル兼六園口(東口)から、路線バスで「出羽町」または「広坂・21世紀美術館」下車、徒歩5~7分。

[タクシー]

JR金沢駅から4km、平常時で10~15分。

[自家用車]

北陸自動車道「金沢西」もしくは「金沢森本」インターチェンジから20~30分。来館者専用の駐車場(無料)あり。

石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1 TEL:076-231-7580

<https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>



感染症拡大防止のため、ご来館の方にはマスクの着用、手指消毒、体温測定をお願いしております。

また、混雑時には入場規制を行う場合があります。最新の情報は、当館公式ウェブサイトをご覧ください。